

越冬性が優れるナタネ新品種 「キタノキラメキ」

ナタネは世界の主要な油糧作物の一つであり、ナタネ油は国内で最も多く消費されている植物油です。国内におけるナタネ生産量は貿易自由化などによって激減しました。近年は、消費者の国産志向の高まりから国産ナタネ油も注目されるようになり、生産量が増加しつつあります。

現在、全国の都道府県の中でナタネの作付面積および生産量が多いのは北海道です。北海道では平坦部を中心にナタネが栽培されていますが、冬の寒さが特に厳しい十勝地域では寒雪害（冬の寒さや雪によって植物が受けるダメージ）が問題になっており、より寒雪害に強い品種が求められています。

《「キタノキラメキ」の特徴》

「キタノキラメキ」は2012年に誕生したナタネ新品種です。北海道および東北地域で栽培されている「キザキノナタネ」と同じく、栄養学的に望ましくないエルシン酸が種子中に含まれていないため食用油に適しています。「キザキノナタネ」と比較して草丈がやや高く、成熟期は3日程度おそい品種です（写真1）。



キタノキラメキ

キザキノナタネ

写真1／「キタノキラメキ」の草姿

「キタノキラメキ」の一番の特徴は、「キザキノナタネ」より寒雪害に強いことです。北海道十勝地域（芽室町）において、越冬株率（雪解け後に生存している植物の割合）は「キザキノナタネ」より高く、寒雪害抵抗性は「キザキノナタネ」より強い“かなり強”です。育成地（岩手県盛岡市）では「キザキノナタネ」より若干低収ですが、北海道十勝地域ではやや多収です（図1）。また、北海道十勝地域においては、含油率（種子に含まれる油の割合）が「キザキノナタネ」より高くなっています。

「キタノキラメキ」はこれまでの無エルシン酸品種より寒

畑作園芸研究領域

川崎光代

KAWASAKI, Mitsuyo



雪害に強く越冬性が優れていますので、北海道十勝地域などの厳寒地域での栽培に適しています。

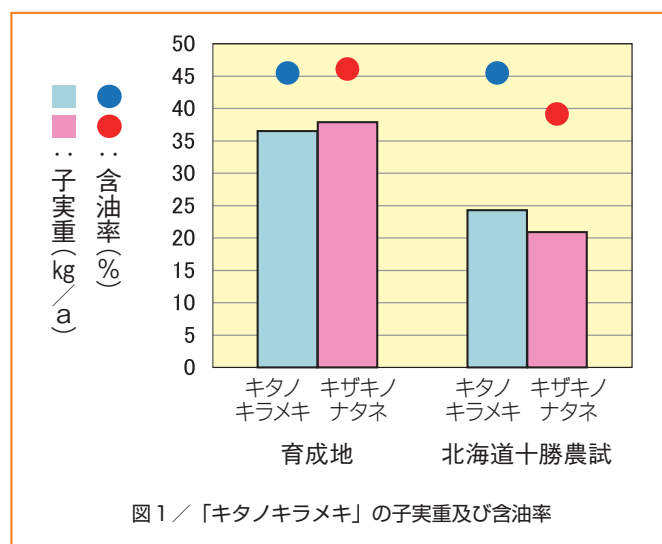


図1／「キタノキラメキ」の子実重及び含油率

《「キタノキラメキ」への期待》

「キタノキラメキ」は、寒地において開花時期にきらめいて咲き誇っている様子をイメージして名付けられました。「キタノキラメキ」が厳寒地域におけるナタネの生産拡大に貢献できる品種となるよう期待しています（写真2）。



写真2／北海道更別村における「キタノキラメキ」開花の様子